

(はじめに)

私たちは世界中の人々が平和に暮らせることを望みます。

戦火で殺され、悲しむ人々が増えないように、

アフガニスタンやイラクで行われている「反テロ」を名目とする戦争の中止を求めます。

それが他の中東諸国や、北朝鮮など東アジアに拡大することに反対します。

そして日本が、

アフガニスタンに続きイラクに自衛隊を派遣し、この世界的な戦争に加わることに反対します。

さらに北朝鮮へ強硬姿勢を取って、朝鮮半島における戦争開始に加担することに反対します。

わが国は、世界に誇れる平和憲法を持っています。

かけがえのない生命の星・地球に住むいのちを守るために

地球平和を掲げ、認め合い、対話し、信頼を得、世界の人々と共に、人を殺さない平和を築いて

いきたいと思います。

・・・・・・・・詳しくは、学術版・平易版を参照にしてください・・・・・・・・

2003,8,19

### アート・オブ・ピース版 (第1版)

奪いあうことから "分ちあうことへ"

差別することから "認めあうことへ"

平和な世の中をつくっていくなかで、身を守るために、武器を持ち

殺しあいながら、武器を陰湿に強大にしていくやり方と

片や

他を認め"おかげさま"といって、他に感謝し

誰一人殺すことなく、他と共に生きる喜びをみいだす"共生"というあり方

一方が他への不信からはじまるのに対し

もう一方は、他を信頼するところからはじまっていく

「"命こそ宝" 人を殺さない共生の生き方～戦争から平和への転換のために～」

足の裏で憲法九条を考える会・有志

## 1) 暴力性への気づきから、"共生"の社会へ

私たちの日常生活でも、ケンカが絶えず、誘拐や人殺しが頻繁に起こっています。そこで"人間の根底に、人を憎む気持があるのではないか?"と、私たちは「テロから戦争への悲劇」を、一人ひとりの心の問題として捉えなおしはじめました。

自己の気持を足元から見据え直すと、差別意識・嫉妬・猜疑心・強欲など、私たちの内面に暴力性が潜んでいることを、改めて感じとることが出来ました（以下は、学問的ではありません。あくまでも私達が話し合い、内面を見つめ、感じた事柄です）。

第一に、自分の中にある暴力性をおさめるため、世の中の動向に左右されず、自分らしく生きること。自分らしく生きるためには、自分自身を振り返る時間と精神的な余裕が必要だという事に気がつきました。

第二に、自分を振り返った時に見えてくる"他者が在って私がいる"。食卓の向こうに漁師の方がいて、田んぼで働く農民がいて、食料を運んでくれる運送業の方がいて、車のエネルギーとなる中東のオイルを汲み上げる人がいて、そのオイルを運ぶ船員がいて、さまざまな人々のお蔭で生きる事が出来ている。普段、お金を払えば当り前に買えると思っている向こう側を見る事の大切さ、人々はつながりあって生きている。こうした他者の存在と恩恵に気づき、感謝すること。

第三に、気が合わず、理解しあえない他者を、いじめ・闘い、暴力的に自分の支配下に置いていくのがいいのか？ 違いを受け入れることで、新しいモノの見方が発見出来る方がいいのか？

他者を受け入れる事は難しい、しかし、互いが傷つけ合わないようにするには、互いの良さを認めあい、対話し、どうやったら 互いが信頼を持って生きていけるかを探り合っていく事が大切だと思いました。

第四に、多様な生命を育んでいる森が豊かであるように、太っ腹になり、他の違いを認める事が出来るようになると、人それぞれの個性が花開き、自らも伸び伸びと生きる事が可能になってくる。つながり合っている"個の多様性"を認め合う事が、調和ある豊かな社会の原動力になってくるような気がする。

第五に、お金に縛られるのではなく、共に生きていく為に分かち合える友愛の経済システムを模索し、平和を育てていく為に、種子を植え、時間をかけて"共生"の社会を辛抱強く育てていく事こそ大切だと感じました。

第六に、科学文明による負荷で温暖化が進み、地球環境が破壊されつつあります。今や、人間同士が戦っている場合ではなく、「私たちは国民である前に、地球人であり、私たちは地球人である前に、生命である」という、生きる基本に立ち、いさかいを止め、国境を越え、互いに助け合う事の出来る人類へと進化していく必要があると感じました。

## 2) 私たちは、人の死を望まない！ 国という枠を越え、人々がつながり合いはじめた

人の死をなんとも思わない冷血なテロや戦争、その死の先に悲しむ家族があり、残された子どもがいるかもしれません。

大国の横暴に対し、世界中の血の通った人々が"人間でありたい"と、思い立ちあがった。2003年2月15日、国境を越え、1000万人の市民が国連憲章を無視したアメリカ・イギリスの戦争行動にNOの声を挙げ始めました。戦争を回避する事はできませんでしたが、声をあげた人々は、平和を創造する為に、自分に出来る事をし始めたのです。

何故、平和を望む人々が国境を越えつながり合う事が出来たのでしょうか？

"自分の家族が殺されたら・・・"自分がやられたらイヤな事を、他人にしない。

"人の痛みは、自分の痛み" 答えは、すごく簡単でした。

人々は決してテロを容認しません。しかし、国家による報復は報復を呼ぶ、人々が9・11の多くの犠牲者から学んだ事柄でした。人々は、テロ首謀者を裁き、テロが起きる原因を究明し、原因の一つひとつを解消していく事こそ、大切だと思っています。

## 3) "共生 (ともいき) の道"——それぞれのいのちの速度

21世紀の人類に求められているのは共に生きる智慧です。"共生"とは、他を信じる勇気を持ち、それぞれの文化が培った人間の生きる速度を大切に、文明の違いを認め、多様な文化の棲み分けを包容できる人間性復活の社会の実現です。

ところが、多様である事が不得意な科学文明は、ベルトコンベアーから異を唱えたり、個を主張する規格品外の人々をはじき出してきました。例えていえば登校拒否児や自殺してしまう人々です。それは人を差別しているというよりも、規格品外のものを受け入れる煩雑な手間や余分なコストを避けたいという経済優先の結果が、無残にも人の人生を奪っていつてしまう。

機械の速度に慣れきってしまった人々が"人間が生きる速度とは・・・"と、自問しはじめると、今まではじきとばされていた弱者と言われていた人々が"私は人間なんです" "私を尊重して下さい"と、管理された文明社会のスピードに対する警告とサインを発していた事に気づかされます。

弱者とは、繊細で感受性が強く、鈍感になってしまった現代人に、生命危機の危険信号を発信してくれる人々。息苦しい閉塞感の中で、生きる事への生命の叫びをあげている人々ではないのだろうか？実は弱者と言われてきた人々こそが人間として正常で、私たちの方こそが狂っているのではないだろうか？

彼らの叫び声に耳を澄まし、社会としての生態系が崩れかかっている現実をしっかりと受け止め、どうしたら全ての人々が豊かに幸せに生きていける社会を創造することが出

来るのか？ 彼らのゆっくりとした歩みや、生命が活かされる速度を学んでいく必要があるのではないだろうか？

現代人が、人間らしい自分の速度を取り戻した時、人に対する優しさをはじめて発揮することが出来るのではないだろうか？

#### 4) 人類の智慧「憲法九条が持っている底力」

殺戮や内戦の愚に目覚め、軍隊を捨て、その費用を福祉と教育にあて、経済的に豊かになっていった非武装平和国家コスタリカの生き方を学ぶ必要があります。コスタリカは自国の平和を取り戻すや、積極的平和外交で争いに明け暮れていた隣国へも、この素晴らしい国の生き方を伝えていき、中米に平和が訪れたのです。

日本にも戦争を放棄する世界に誇れる平和憲法9条があります。この9条には国際平和を希求する共生の思想が内在しています。戦うことで平和が勝ち取れるという今までの考え方から、この憲法は対話し認めあう事で平和を実現できるという、文明史的転換の可能性を秘めているのです。

経済大国として、西欧列強のように成りたいと思っている政府は、この戦わない憲法が不便ではようがありませんでした。ところが今こそ、この他国にはないかけがえのない憲法がわが国の財産である事に目覚め、この「戦争しない」「戦争させない」共生の思想を、積極的に世界へ向けてアピールする時期が来たのだと思います。広島・長崎が受けた原爆、この痛みを、人類が二度と過ちを犯さない為の負の遺産とし、劣化ウラン弾が使用される事に強く抗議をしていくことこそ、日本の役割だと思えます。

友好国アメリカであればなお更、友人に諭すようにその意味を真剣に伝えていくべきなのではないでしょうか？ 9・11がそうであるように、負の遺産は決して風化させてはいけません。私たち人類は、その痛みの意味、何故こんな事が起きてしまったのか？ ただ被害者であるばかりでなく、その傷を受けた原因はなかったのだろうか？と、自問し、その原因の根本まで深く掘り下げる必要があるのではないのでしょうか？

共に生きていく智慧、それを身につける事はた易い事ではありません。私たち「足の裏から憲法九条を考える会」が模索しているように、"先ず魁から振返ってみ、他人に責任をなすりつけるのではなく、自らも反省する力を身につけ、そこからもうこのような悲劇を繰返さない為に、共に努力をしていこう！"と、対話への道を拓いていくことではないのでしょうか？

多くの命を奪う戦争、それは平和を一時的に回避する選択のように思えるかもしれません。しかし、力でねじ伏せるあり方は決して長期的な解決策ではないはずです。

私たち人類は何故、智慧を戴いたのでしょうか？

私たちは、時代という平面で価値を判断するのではなく、"生命の智慧はつながっている"という人類が経てきた歴史という立体から、もう一度学び直す必要があるのではないのでしょうか？ 私たちは文明の遺産・現代数学の基礎を中東から学んでいます。その大い

なる恩恵に浴している事に感謝し、人間性に目覚め、辛抱強く対話し、信頼感を回復し、今度は現代文明を持っている私たちから、武器を持たないで平和を実現する共生の智慧を伝えていく事なのかもしれません。

20世紀は戦争の世紀でした。もう人々の血と哀しみは要りません。地球生存環境が壊れかかっている21世紀、人類が平和への世紀を歩み出す為に、日本という平和憲法を有している国が出来る事、この国が持っている個性、東洋の和の思想こそ、世界へと発信する時が来たようです。

アメリカ追随から、精神の独立し、友愛の経済へと切り替え、人々と共に生きる世界を希求しようではありませんか？

文明は栄枯盛衰します。今という短期的な経済復興を施行するのではなく、想像力を授かった人間が次世代へ残せる正なる遺産として"平和への世紀"を創造する智慧として、日本から積極的に「平和術」を提案していきましょう。